

14 番（小川義昭議員）

おはようございます。

議席番号 14 番、市政会、小川義昭です。通告に従いまして一般質問を行います。

令和 3 年春の白山市議会 3 月会議は、白山市が発足して 5 回目となる市議会議員選挙で当選した議員たちによる初めての会議であります。

今回の市議会議員選挙は、告示日まで 1 か月を切ってもなお立候補者が確定に至らず、定数に満たないまま、当初は無競争の選挙になるのではとも思われました。しかしながら、一旦は議員活動からの引退を表明した方が土壇場で立候補に踏み切るなどして、ようやく少数激戦が確定するという珍しい経緯をたどった選挙戦となりました。

また、それ以上にかつてない経験であったことは、新型コロナウイルス感染禍における稀有な選挙であった点であり、全ての候補者が 3 密を避け、握手もままならない窮屈な戦いを強いられたことが何よりも特筆されるのではないのでしょうか。

このたびの選挙戦は私にとりまして 5 度目の挑戦だったのですが、新型コロナウイルスへの感染回避を最優先しての戦いでは、これまで膝突き合わせて親しく手を握り合い、語り合ってきた支持者、有権者の皆様に直接支持を訴える活動が完全に封じ込められた形となりました。

私は今、どこに手応えを見いだしていいのかが分からない、それこそ徒手空拳の難しい戦いであったと選挙戦を振り返っておりますが、声高に政策、公約を語る場所や機会が失われたじくじたる思いをどうやって有権者にお届けするのか、あるいは有権者の皆様が抱いておられる市政への期待や注文をどのように受け止め、感じ取っていけばいいのか。

そうした議員と有権者の意思の疎通の難しさ、目に見えないバリアを挟んだ有権者との距離感の大きさ、深さを改めて痛感させられた選挙戦であったと考えています。

とはいえ、このたびの選挙戦では、松任地域はもとより白山ろく、鶴来、美川地域を回る道筋において、地域の皆さんの営みに不可欠なインフラの不備、とりわけ道路の不備を数多く見受けました。

町内を走る生活道路のひび割れ、あるいは陥没、アスファルトの劣化による碎石の飛散状況、センターラインや外側線の消耗などは各地に散見され、私は直ちに有権者の方々と語り合えないもどかしさを感じながら、ならば自分の目で確かめた白山市の暮らしの実情に思いを馳せ、これまで以上に有権者に寄り添う質問、議員活動に情熱を注ぎたいと考えた次第であります。

こうした思いを根底に据えて、この会議では初心に立ち返って、生活道路の補修などの地域インフラ整備に対する白山市の基本姿勢を皮切りに御答弁を求めてまいりたいと存じます。

そこで、1 点目の質問は、生活道路補修などのインフラ整備についてであります。

本市の厳しい財政状況は市民の皆さんも十分認識、承知していますので、それぞれの町内会から出される要望事項などをも含め、生活道路の補修など地域のインフラ整備を、個々の優先度合いを精査・考慮して、3年から5年程度の期間で具体的な補修整備計画を策定し、実施してはいかがでしょうか。

本市は、住みよさランキング2019で全国1位に輝いています。昨年はやや順位を落としたものの、それでも4位という高い評価を頂戴しています。今後はこうした外部からの高評価が絵空事にならないよう、市当局が積極的にインフラの実情に目を配り、地域の要望に先手を打って対応していく感受性と果敢な行動力を求めたいと考えます。市当局の前向きな回答を御期待したいと存じます。